

36・父の日(2006.6)

先月に続き今月は「父の日」の月である。親を想う子供にとっては何かと大変なシーズンではないだろうか。長年父親をやっているが語源がはっきりしないので、パソコンを使いチェックした。

母の日と同じくやはりアメリカが発祥地であった。妻に先立たれたある父親が男手一つで娘一人と五人の息子を立派に育て上げた。「母の日」があるように父に感謝する日があっても良いはずと、ワシントンに住む娘だったドット婦人が提唱したとのこと、1909年のことである。その後1916年にはアメリカ全土で行事が行われるようになり、日本で一般的になったのは1980年代とのことである。

六月初旬に娘から電話があった。「お父さん、何か欲しいものある？」。従来は何も言わなくても酒かツマミ類が多かったように思う。私は一応遠慮しながら「せっかくならブランドデーがいいね」と言うと、妻が側で聞いており「虎屋の水羊羹を食べたいね」とつぶやいた。

その結果、十八日の朝に水羊羹が届き二人で味わいながら昔話をするようになったが、酒よりはこちらが正解だったのかな？　と思ったりした。

37・父の日・つづき(2006.6)

以前にも書いたが大リーグのマリナーズファンで、テレビ中継のある日は必ず観戦している。イチローと城島のコンビで今年は昨年とは違った展開になるはずと見守っているが、なかなか思うようにチームの勝ちにつながっていないようである。でも、イチロー、城島、マリナーズも段々調子が出て来ているように思う。今シーズンはまだまだ先がある、必ずこれから何かが起こり面白い展開になると信じている。

マリナーズが勝ち進むことを念願し、人生初めて球団の帽子を買うことを決断し、横浜のMM21にある大きな総合マーケットに出かけた。探すのが面倒だったので入口のレジカウンターで聞いてみた。「大リーグの帽子は置いてますか？」

チョットお待ちくださいと言い、どこかに電話しながら「何処のチームですか？」と聞いてきた。これは脈があるなど内心確信しながら、「イチローと城島のマリナーズです」と元気よく答えた。

しばらく電話をした後「申し訳ありません、ヤンキースはありますがマリナーズは置いていません」ときた。成る程そう言うこともありかなと思いつながら、約三メートル先の向かいのカウンターから私をじっと見つめている女性と目が合った。妻が後ろから女優の田中裕子がいると囁いた、全然気が付かなかった私は「え！」とばかり改めて大女優と見つめ合ってしまった。思わず会釈しようかと思ったが、かえって失礼かなと瞬間的に考え直し、カウンターの店員に

「分かりました、残念だね、せっかくなから店を見せてもらいます」と言いなが

ら、大女優とのその場を自然な形でしのいだ。

店内を回っていると突然大きなスポーツコーナーに出くわした。何と大リーグの全チームのユニフォーム、Tシャツ、帽子などが並んでいるではないか！喜びと同時に唖然としてしまった。

マリナーズの帽子を手に取り値段を聞くと四千五百円。

「これはイチローがかぶっているものと同じものですか？ 値段からするとメイドインUSAでしょうね」と若い店員に聞くと、いえ多分中国製のレプリカ（コピー）ではないかと思えます、との答えが返ってきた。レプリカなら買うのを止めようかと思っただけでしばらくすると、

「すいません、メイドインUSAに間違いありません」

と訂正しながら、帽子の裏側の折り返し部分を見せられた。

帰りのレジで先ほどの店員に報告すると「ああ、そうですか」の一言、あっけらかんとしている。この大きなマーケットは外資系のようなのだが、一体若い店員達はどんなにしているのだろうか、たぶん店員教育はそれなりにやっているのであるだろうが、肝心の本人達が本気に業績貢献の気持になって、商品知識を身につけねばならないのではないだろうか。四千五百円の帽子、チョット高かったが父の日だから「まあいいか！」と割り切った。

38・オアシスに住む (2006.7)

しばらく雨がなくむし暑い日が続いていたが、今朝は涼しく熟睡したようで実に快適である。起床し窓を開けると、やはり適度な雨が降っている。雨がいいものだなあ・・とつくづく眺め、心が落ち着く。庭の木々の緑が一際濃く感じられ、木々が微笑んでいるように思え、木の葉から零れ落ちる水滴が美しく、尊くさえ思ってしまう。

でも、朝から仕事に出かけねばならない人、洗濯物が乾かないと困る主婦にとっては、雨と聞くだけで「あーあ」と憂鬱な一日になってしまうかも。さらに雨量が多くなると水害や土砂崩れを起こし、これまた大変な事になってしまうので雨もほどほどが良い。

十年ほど前、梅雨の季節に仕事の関係で来日したカタール人を家に招待した。その数ヶ月前にカタールの首都ドーハにある彼の家にお茶によべたことがあった、広いガレージに車が三台、バトミントンコート、室内プール等もあり、部屋が十数個あるという大きな家で、日本の私の家がウサギ小屋と言われても仕方ないほどの大差にビックリ仰天、羨望の眼差しだった。

彼を我が家に迎えた時、家内が「雨ばかり降って洗濯物は乾かないし、毎日じめじめして嫌になっちゃうのよ」とぼやいたら、「何を言うのですか、あなた方はオアシスの中に住んでいるんですよ！ 雨が降り、草木が茂りすばらしい！」と言ったのです・・

その時、私達家族は目からうるこを経験しました。そう言われてみれば確かにカタールの彼の家は、庭に木はなく草花も無く砂の来襲を防ぐフェンスで囲まれ、

家並みを過ぎると延々とした砂漠と岩山だったなあ・・・と思い出した。雨を当然のように感じ、毎日好きなだけ水を使い飲み、緑と花に囲まれている生活は、中東の人から見たらまさにオアシスに住んでいるのです。「そうだ、オアシスに住んでいるのだ！」と今朝は改めて思ったが、多分彼の言葉を思い出さなかったら違っていたかも・・・この土地に住めることに感謝しなければならぬほど私たちは幸せなんですね。でも、毎年雨による災害が何と多いことでしょう。幸せは災害と隣りあわせとも言えます。

雨が降っても災害が起こらない真のオアシスは実現できないものでしょうかね。

カタールの気候は、雨はほとんど降らず年間30ミリ程度

夏季の四月〜十月は四十℃以上が普通、六〜八月は五十℃近くになる。

海に囲まれ高湿度、国土の大部分は岩山と不毛の砂漠



39・夏の夜空に轟く花火・・圧巻 (2006.7)

横浜港は安政六年（1859）に開港した。国際花火大会は昭和三十一年（1956）に始まり、今や横浜の夏に欠かせない風物詩になっています。私は1960年に横浜の住民になり、横浜港には散策や釣りなどで数え切れないほど足を運んでいるが、花火大会に行くのは今年でまだ二回目である。新聞によると今年も一時間に約六千発打ち上げられ、約四十九万人が山下公園、赤レンガ倉庫、臨港パークなどに詰め掛けたそうである。前回は赤レンガ倉庫から観覧したが、打ち上げ地点が大さん橋の陰になり、その迫力、緊迫感に少し欠けたように思う。今年も打ち上げ地点の目の前で観てみたいと考え、山下埠頭の特別観覧席のチケットを早々に購入した。長い間には横浜港周辺をくまなく散策したり、船に乗ったりしているが山下埠頭に入るのは初めてで、その広大さにビックリした。

ふ頭内をしばらく歩くと入口が四つあり、チケットの色と同じ入口から入ると

広い岸壁に椅子が八千脚も整然と並んでいた。同じ色の立て看板めがけて歩くと実にスムーズに指定席にたどり着いた。

椅子には全部チケットナンバーが貼ってあり、まさに花火のための野外劇場だ。期待の打ち上げ地点は海の中にあり、多分タグボートを集めて作ったものと思うが相当広そうである。しかも視界をさえぎる物が何も無く・・・じつにいい。花火打ち上げ前から胸が高鳴ってしまい思わずビールを飲むピッチが速くなってしまった。

日も落ちて辺りが薄暗くなると、向かいの各種ランドマークの建物、停泊している豪華客船飛鳥Ⅱ、山下公園、氷川丸、マリントワーなどのライトが実に美しい。夜景とビールに満足しているついに打ち上げ開始時間になった。尺玉は地上五百メートルの高さで直径四百八十メートルの広がりだそうだ、やはり花火は近いほど良い！ その見事さと音の迫力に大満足の一夜であった。チケットは少し高かったが価値は十分にあった気がする、多分来年もまた・・・と今から思ったりする。でも大栈橋や氷川丸のビアガーデンから観るのも、また良いかもしれない。

40・東京は主要七十都市でもっとも豊か？

新聞によると・・・東京で十分働けば「ビッグマック」が買えるが、コロンビアの首都ボゴタでは九十七分働かないと買えないらしい。昔、ボゴタの自動車電話システムで職場の同僚がたくさんコロンビアに出張していたことがあり、特に興味深く読んだ。

スイスの大手金融UBSが主要七十都市で物やサービスの価格、賃金、購買力などを比べる調査を三年毎にやっている。世界中で食べるビッグマックを指標とすると、ロサンゼルス十一分、シカゴとマイアミが十二分、ニューヨーク十三分、七十都市で日本が一番短時間とのことである。

もしやと思いインターネットで調べてみると、コカコーラ指標、スターバックス指標、映画代指標などもあるようだ。映画を一本観るための労働時間は、日本は四十八分、アメリカ三十五分、インド十六分。新作映画はアメリカ、カナダで六〜七ドル、日本は千八百円（イギリスの Screen Digest 社の調査）

日本はかなり高いぞ、但し、私は千円（シニア）で観れるが・・・。ところで、新聞のサブタイトルに「東京、七十都市でもっとも豊か」とあるが、果たしてそうだろうか？ ビッグマックは九十五年から二百八十円らしいが、時給換算すると千六百八十円。バイトやパートの世界は十分でビッグマックを半分しか食べないのでは？ しかもニートやフリータ、非正社員も昨今相当増えているとのことだ。

さらに、格差が拡大しており田舎のパートでは半分も食べられなく、それでも働く場所が見つかる人は「まだマシ」とのこと。

土地を買うための労働時間、アパートの部屋の広さも加味した家賃と労働時間などを思うとき、ビッグマック指標≠豊かさの実感が現実と言わざるを得ない・・・ですね。